

「話・食・動・眠」を大切にした 新たなサービス付き高齢者向け住宅。



一番館の2カ所の車いすトイレには、前方ボードとともに離座センサーを配備。トイレ介助が必要になった場合も、入居者のプライバシーに配慮しながら転倒を防ぐ工夫が施されている。

セキスイハイムは、「ハイムガーデン」のブランドで高齢者住宅を直営しています。東京（立川）、名古屋（熱田）、千葉（流山）に続き、同社として東北地区では初となるサービス付き高齢者向け住宅（サ高住）であるハイムガーデン仙台泉を2017年12月、仙台市泉区にオープン。健康寿命を伸ばし、たとえ介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けられる安心のある住まいです。



左が一番館、右が二番館。花壇や菜園があり、ガーデニングを楽しむこともできる。

自立者向け、要介護者向けの2つの棟が 永く安心できる健やかな暮らしをサポート。

今の健康を長く保ち、元気に自立して暮らしたい人は「二番館」。日常生活にサポートが必要な要介護・認知症対応の住まいは「一番館」。ここには中庭を挟み、ライフステージで選べる2棟の住まいがあります。将来介護が必要になった場合も、二番館から一番館への住み替えができるため、永く安心して暮らすことができます。

コンセプトは「話・食・動・眠」。東北大学加齢医学研究所の瀧靖之教授が、健康維持と認知症予防のためには、「会話」「食事」「運動」「睡眠」の4つが有効であると提唱されています。これを具現化するために、栄養バランスの取れた食事を提供したり、自然に運動習慣をつけるための環境が整えられています。

また、トイレ介助が必要になっても排泄が安全・安心にできるように、一番館には離座センサー付きの車いすトイレを用意。前方ボードで座位を安定させながら、離座コールで適切に介助のタイミングをはかり、転倒のリスクを低減させるよう配慮されています。



お花を見ながら歩くだけで運動になるように設計されている「ガーデンジム」。

ハイムガーデン仙台泉

- 竣工年月 / 2017年11月
- 所在地 / 宮城県仙台市泉区将監5-24-28
- 建築主 / 一番館：株式会社ヘルシーサービス
二番館：東北セキスイハイム不動産株式会社
- 設計・施工 / セキスイハイム東北株式会社
- 延床面積 / 一番館：999.98㎡
二番館：988.42㎡
- 戸数 / 一番館：30戸
二番館：18戸



誰もが利用できる運動用具が設置された「パークジム」。



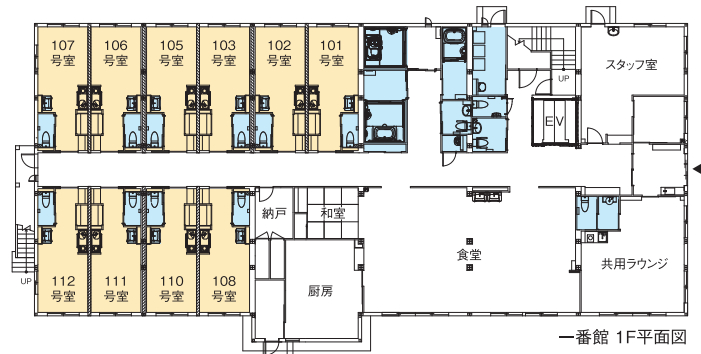
二番館1Fに設けられたトレーニングジム「うちジム」。入居者の健康を保持・増進するための適度な運動ができる。



一番館1Fのスタッフ用トイレ。穏やかなカラーリングの落ち着いた空間となっている。



一番館の居室内のトイレ。入口は3枚引戸で、車いすでも楽にアプローチできる広さを確保。



一番館の廊下の床には、抗ウイルス・抗菌・脱臭・抗アレルギーの効果のある、自然素材で作られた床材を採用。暮らす人の健康に寄与できるように配慮されています。



一番館1Fの食堂。憩いの空間が、会話と交流を育んでいる。



リノリウム床材を採用した一番館の廊下。耐久性に優れ、メンテナンスも容易である。

voice 一番館の施設長さんからの声

離座センサーは介護度が進んだ時の安心機能です。



株式会社ヘルシーサービス
営業部 第6グループ
ハイムガーデン仙台営業所
所長
吉田昭則さん

トイレの離座センサーを使っている方はまだいませんが、将来的に重度の認知症になった場合などの必要時を想定して配備しました。入居希望者にご紹介する際に、安心していただけるアピールポイントにもなっています。一番館の廊下には抗菌・抗ウイルスなどに効果があるとされる床材を採用していますが、実際に風邪やインフルエンザなどを抑制しているのではないかと感じるところもあります。

voice 二番館の施設長さんからの声

無理のない運動習慣をサポートできる環境です。



東北セキスイハイム不動産株式会社
ハイムガーデン仙台営業所
所長
名郷根篤さん

施設の周囲には「ウォーキング・パス」と呼ばれる1周180mの散歩道があり、食後に歩くなど、無理のない運動習慣をサポートできる環境が整えられています。また、安全・安心の暮らしをかなえるために、2つの棟には大容量の太陽光発電システムや大型蓄電池を設置。所有する電気自動車に充電できるシステムで、災害などの停電時には電気自動車から建物に発電し、ライフラインを確保できます。

voice 設計担当の方からの声

PHSの活用が、入居者との会話・交流を増やします。



積水化学工業株式会社
住宅カンパニー
主席技術員
設計・開発担当部長
有原正勝さん

フリーマーケットなどのイベントも行われる地域に開かれた住まいで、一番館と二番館の住人同士も交流できます。スタッフが持っているPHSは多機能で、外線や玄関のインターホンに対して通話ができ、もちろん各居室からのコールや、トイレの離座センサーからのコールも受けられます。スタッフ室に常駐しなくてもいいので、入居者のそばにいて会話や交流を増やせるようになると思います。



まるでホテルのレストランのような、二番館の食堂。料理を一緒に作って食べることのできる共同キッチンも用意されている。